



大阪科学・大学記者クラブ 御中

(同時提供先：文部科学記者会、科学記者会)

2023 年 4 月 11 日

大阪公立大学

日本人・中国人のコミュニケーションスタイルを解明

会話時にスタイルを切り替えることが明らかに！

<ポイント>

- ◇ 東洋人は高コンテキスト文化※¹とされているが、日本人・中国人では、お互い相手国の人とコミュニケーションを取る際、低コンテキスト文化※²にコードスイッチング※³をしている。
- ◇ 日本人は日本で生活している中国人留学生に対しては、高コンテキスト文化スタイルのままである。
- ◇ 低コンテキスト文化は異文化交流が盛んな環境で形成されやすいことを示唆。

<概要>

人々がコミュニケーションを行う場合は、話し手と聞き手が共有する情報であるコンテキストを利用します。このコンテキストの依存度には文化差があると考えられ、西洋人は依存度が低い『低コンテキスト文化』、東洋人は依存度が高い『高コンテキスト文化』とされてきました。

大阪公立大学大学院 文学研究科 呉 長憶大学院生と山 祐嗣教授の研究グループは、高コンテキスト文化とさ

れている日本人および中国人は、相手国の人とコミュニケーションを取る際、高コンテキスト文化から低コンテキスト文化にコードスイッチングしていることを明らかにしました。さらに、日本人は、日本で生活している中国人留学生に対しては、コードスイッチングをあまり行わないことも明らかとなりました。本研究により、人々が異文化間コミュニケーションを行う際は、低コンテキスト文化である可能性が高いことが示唆されたと同時に、低コンテキスト文化は異文化交流が多い環境で形成されやすいことも示唆されました。

本研究成果は、2023 年 3 月 27 日（月）、国際学術誌「Global Networks」にオンライン掲載されました。

私が上海の会社で働いていた時、同僚たちが物事の背景をよく把握できていない状況でコミュニケーションを取ると、よく誤解が起きることに気が付き、本研究に取り組みました。

コンテキストへの依存は特に異文化交流において非常に重要であると考えています。本研究成果は、異文化交流が多い環境では、互いの常識の共有が困難なため、誤解を避けるために低コンテキスト文化が形成されやすいことを示唆しています。

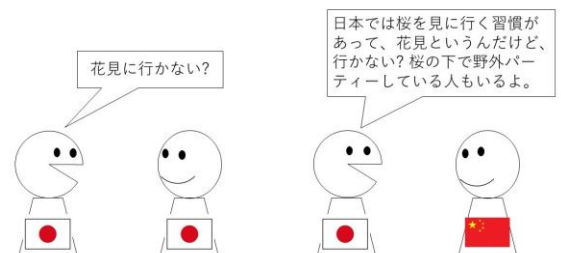
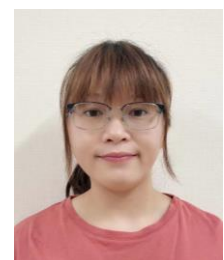


図 1 コードスイッチングの例
(コンテキストを共有していない相手には低コンテキスト文化スタイルをとる)



呉 長憶大学院生

<研究の背景>

人々がコミュニケーションを行う場合は、話し手と聞き手が共有する情報、すなわちコンテキストを利用します。たとえば、友人を花見に誘う場合、日本人相手なら、「花見に行かない?」というだけで意図を理解してもらえます。その理由は、花見とは何かからその雰囲気まで、コンテキストとして共有されているからです。コミュニケーションにおけるこのコンテキストの依存度には文化差があると考えられ、西洋人は依存度が低い『低コンテキスト文化』、東洋人は依存度が高い『高コンテキスト文化』とされてきました (e.g., Hall, 1976; Meyer, 2014; Yama & Zakaria, 2019)。いわゆる、阿吽の呼吸は典型的な高コンテキスト文化のコミュニケーションスタイルです。

従って、日本人も中国人も同じ東洋人として高コンテキスト文化圏のはずですが、先行研究において『日本人は、中国人のコミュニケーションスタイルが、西洋人と同じように低コンテキスト文化であると信じている』という主張があります (山科, 2018)。私たちはこの理由を、日本人は比較的他国の人々より中国人と接点があると同時に、中国人は日本人とコミュニケーションを行う際にコンテキストが共有されないことを考慮しているためではないかと推論しました。この解釈の背景には、低コンテキスト文化は、異文化コミュニケーション時に生じやすいとする主張 (Gudykunst, 1991; Ting-Toomey, 1999) と、人々が異なるコミュニケーションスタイルに対応する際の適応行動として、高コンテキスト文化と低コンテキスト文化をコードスイッチングするという主張 (Zakaria, 2017) があります。図 1 にありますように、日本人ではなく中国人を誘う場合は、花見とは何かの説明をくわえるわけです。そこで本研究は、この解釈について検証することを目的に実施しました。

<研究の内容>

本研究では、コンテキスト依存度を測定する 17 項目の質問紙 (Richardson & Smith, 2007) を用いて、日本人大学生 (65 名) と中国人大学生 (80 名)、日本で生活している中国人留学生 (50 名) を対象にアンケート調査を行いました。各グループは、各質問 (「伝えたいことを全部言葉にしなくても、聞く人は話す側の意図がわかるはずである」など) に対して『自分自身はどの程度当てはまるか』『自国民はどの程度当てはまるか』『他国民 (日本人なら中国人、中国人および中国人留学生なら日本人) はどの程度当てはまるか』を回答しました。

その結果、日本人学生と中国人学生では、相手国の人々を低コンテキスト文化であると判断していることが明らかとなりました (図 2*1)。つまり、相手に対して自分の国の常識を知らなくても大丈夫なように、コミュニケーションスタイルのコードスイッチングを行い、互いに相手を低コンテキスト文化と判断したわけです。しかし、これらの違いは中国人留学生には見られませんでした (図 2*2)。つまり、すでに日本とコンテキストを共有している留学生には、日本人は低コンテキストスタイルにコードスイッチングをする必要がなくなった結果と解釈できます。

これらの結果は、人々が異文化間コミュニケーションを行う際は、低コンテキスト文化的状況である可能性が確認されたと同時に、低コンテキスト文化は異文化交流が多いような環境で形成されやすいことを示唆します。さらに、異文化コミュニケーション時にコードスイッチングを行うことも示唆されました。

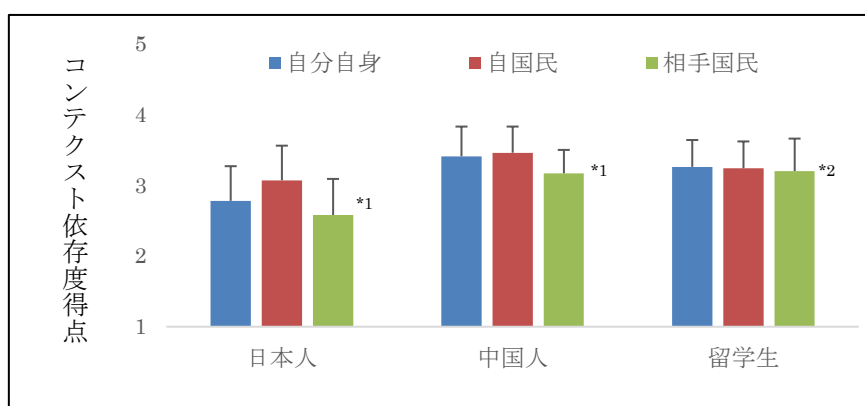


図 2 各グループのコンテキスト依存度

<期待される効果・今後の展開>

この研究には、理論面と実用面の2つの意義があります。理論面としては、高低コンテクストという文化の違いがどのように生まれるのかについて、生態的・地勢的な説明理論に発展させることが可能です。本研究によって、異文化交流時に低コンテクスト文化的コミュニケーションスタイルが用いられやすいことが示されましたが、古代ギリシャのように異文化間の交流が盛んで、1つの文化に統一されにくい地勢的環境で低コンテクスト文化が生まれやすいとする理論に発展させることができます。これが、西洋の低コンテクスト文化の源流となっていると推定できます。

また、実用面としては、効率的なコミュニケーションの促進に示唆を与えてくれます。高コンテクスト文化の人は、低コンテクスト文化の人とのコミュニケーション、あるいは異なる高コンテクスト文化の人とのコミュニケーションにおいて、誤解や葛藤がよく起こります。これは対人関係に悪影響を及ぼします。したがって、相手の話し方に合わせて自身のコミュニケーションスタイルを変えることは、コミュニケーションの質を改善するために非常に重要です。今後は、人々の生活適応能力、コンテクスト依存度、コードスイッチング能力の三者間の関連性について、検討を加えていきます。

<資金情報>

本研究は、日本学術振興会科学研究費（No. 18K03010）の支援を受けて実施されました。

<用語解説>

※1 高コンテクスト文化：コンテクストとは、人々がコミュニケーションを行う際に、話し手と聞き手が共有する情報のことを指す。高コンテクスト文化とは、コンテクストへの依存度が高い文化（Hall, 1976）。

※2 低コンテクスト文化：人々がコミュニケーションする際に、コンテクストへの依存度が低い文化（Hall, 1976）。

※3 コードスイッチング：人々が異なるコミュニケーションスタイルに対応する際の適応行動として、高コンテクスト文化コミュニケーションスタイルから低コンテクスト文化コミュニケーションスタイルに、またはその逆の行動に変換すること（Zakaria, 2017）。

<掲載誌情報>

【発表雑誌】 Global Networks

【論文名】 How do Japanese and Chinese view each other? Understanding the meaning of low-context culture in intercultural communication.

【著者】 Changyi Wu, Hiroshi Yama, Norhayati Zakaria

【掲載URL】 <https://doi.org/10.1111/glob.12440>

【研究内容に関する問い合わせ先】

文学研究科

教授 山 祐嗣

TEL : 06-6605-2377

E-mail : yama.hiroshi1204@gmail.com

【報道に関する問い合わせ先】

担当：広報課 久保

TEL : 06-6605-3411

E-mail : koho-list@ml.omu.ac.jp